

最先端の急性期医療の提供と双方向の医療連携をめざして

# 地域医療連携だより

## 発症初期が大切 膠原病と上手につきあう

京都岡本記念病院は2019年4月から、リウマチ科をリウマチ・膠原病内科に改め、週2日だった外来を週4日(月、火、水、金)に拡充しました。膠原病は全身の複数の臓器に炎症が起り、臓器の機能障害をもたらす一連の疾患群の総称であり、国の指定する「指定難病」にも含まれる病気です。4月に兵庫医科大学から移籍した北野将康部長に膠原病の特徴や治療法について話を聞きました。

号外  
2019.5



### 京都岡本記念病院 リウマチ・膠原病内科

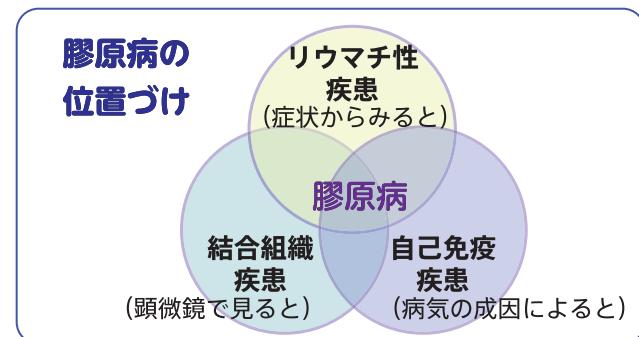
部長 北野 将康 きたの まさやす

—膠原病を専門に研究してきたのですか。

兵庫医科大学で佐野先生（現 京都岡本記念病院院長）の研究室に入り関節リウマチを中心に基礎研究、臨床研究を積んできました。兵庫医科大学病院の外来では、約700人の患者さんをみていましたが、半分は関節リウマチ、残る半分は全身性エリテマトーデス、強皮症、多発性筋炎／皮膚筋炎、混合性結合組織病、シェーグレン症候群、血管炎症候群、ペーチェット病、成人スチル病、再発性多発軟骨炎、抗リン脂質抗体症候群などの患者さんでした。

—膠原病とはどんな病気でしょうか。

膠原病はひとつの病気の名前ではなくいくつかの疾患をまとめた病気の概念のことです。運動器官に痛みが生じるリウマチ性疾患、皮膚や筋肉、神経に炎症が生じる結合組織疾患、体の免疫反応の異常により生じる自己免疫疾患としての特徴を併せ持った病気の総称と考えられています。一般的に女性に多いです。



—原因は分かっていますか。

遺伝的な要因や様々な環境的要因が複雑に絡まり、発症に関連していると考えられていますが、全てが解明されているわけではありません。いっぽう関節リウマチの発症については近年、喫煙が密接に関与していることが明らかにされています。結果として自分の体に対する異常な免疫応答が生じ、多彩な病状が出現します。

—どのような症状が出るのでしょうか。

倦怠感、発熱や関節痛、筋肉の痛み、皮疹、手指の腫脹などがあげられます（※下記参照）。自覚症状だけでは何の病気か分からず、最初は症状によって整形外科や皮膚科などで診察を受けられる患者さんも多いと思います。

—診断が難しいのでは。

これまでに多くの症例をみてきたので病歴や自覚症状、特徴的な理学所見からある程度の診断の予測が可能です。その後、膠原病の確定診断や合併症の評価のために必要に応じて、血液検査や各種画像検査、生理機能検査、組織生検などの各種検査を行います。

→裏面に続く

### 膠原病で出る症状

- 倦怠感（いわゆる体がだるくなる） ●皮疹
- 発熱 ●関節痛 ●筋肉の痛み ●手指の腫脹
- レイノー現象（寒冷刺激や心因的要因による手や指の変色） など



社会医療法人岡本病院（財団）

京都岡本記念病院

大切にします  
ここからだ やすらぎを

地域医療連携室 TEL 0774-46-5981（直通）

# 発症初期が大切 膜原病と上手につきあう

## —治療法は。

自分に対する誤った免疫反応の是正と炎症の制御が治療に直結します。代表的なのは副腎皮質ステロイド薬。他にもさまざまな免疫抑制薬も使います。近年の治療の進歩は目覚ましく、かつての膜原病の難治性病態もコントロールすることが出来るようになってきています。副作用を心配される方も多いと思いますが、定期的に有害事象の有無について評価を行うことで安心して使用することが出来ます。膜原病は発症初期にしっかりと病状を抑えることが大切です。病気の性質上、完治は困難ですが、症状を和らげ安定させることは可能です。つまり病気と上

手に付き合っていけるようにします。

## —京都岡本記念病院での抱負は。

膜原病は多臓器に起こるものから単一臓器のものまで、さまざまです。そういう意味で当院は、多彩な診療科のエキスパートがそろっており、診療科の垣根を超えて連携して治療に当たっていきたい。

現在、通院している患者さんは約250人おられます。これから地域の医療機関からの紹介が増えてくれば、初期治療が必要になるケースも増えてきます。入院にも対応しますので地域医療連携室にお問い合わせください。

## リウマチ・膜原病内科 医師のご紹介



院長  
佐野 統 さの はじめ

京都府立医科大学卒（昭和53年）

医学博士  
兵庫医科大学名誉教授  
京都府立医科大学臨床教授  
日本内科学会（認定内科医、指導医）  
日本内科学会近畿支部  
(評議員、2015年3月第207回近畿地方会会長)  
日本リウマチ学会（評議員、専門医、指導医）  
日本リウマチ学会近畿支部  
(運営委員、2013年9月第23回学術集会会長)  
日本シェーグレン症候群学会  
(理事、2013年9月第22回学術集会会長)  
日本炎症・再生医学会  
(評議員、2017年7月第38回学術集会会長)  
日本臨床免疫学会  
(評議員、名譽会員、2015年7月第43回学術集会会長)  
日本臨床リウマチ学会（評議員、功労会員）  
日本脊椎関節炎学会  
(理事、評議員、2014年10月第24回学術集会会長)  
日本インターフェロン・サイトカイン学会  
(幹事、2019年8月第84回学術集会会長)  
日本リウマチ財団登録医  
日本免疫学会（会員）  
米国リウマチ学会（International member）

## 4月着任



部長  
北野 将康 きたの まさやす

兵庫医科大学卒（平成11年）

医学博士  
日本内科学会認定内科医  
日本内科学会総合内科専門医  
日本内科学会認定指導医  
日本内科学会近畿支部評議員  
日本リウマチ学会専門医・指導医・評議員  
兵庫医科大学非常勤講師

## ●ひとこと●

阪神間のリウマチ膜原病診療の拠点施設である兵庫医科大学で副診療部長として研鑽を積んでまいりました。

安心、納得していただける高い水準の医療の提供を目指し頑張ります。

皆さまとの密接な連携が何より重要と考えております。どうぞよろしくお願ひいたします。

患者さまご紹介のときは、お気軽に地域医療連携室へご連絡ください。

ご紹介患者さまの予約サービスを行っております。紹介患者さまの待ち時間の短縮になります。  
また、あらかじめ情報をご提供いただくことで、患者さまのスムーズな受診となります。ぜひご利用ください。



社会医療法人岡本病院（財団）

**京都岡本記念病院**

〒613-0034 京都府久世郡久御山町佐山西ノ口100番地

**地域医療連携室** TEL 0774-46-5981(直通) FAX 0774-46-7835(直通)